

Fig. 1 おもちゃカメラが組み込まれた絵本 “Smile for Elmo”の表紙

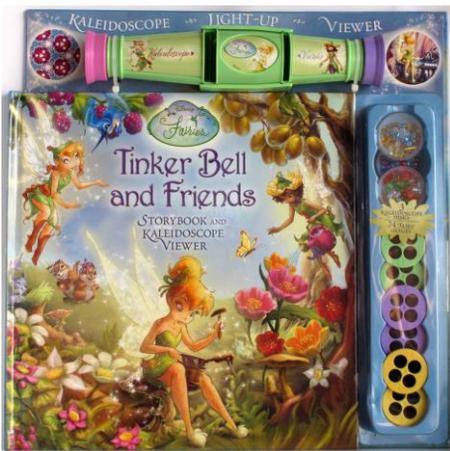


Fig. 2 万華鏡とビューアが付いている絵本 “Tinker Bell and Friends”

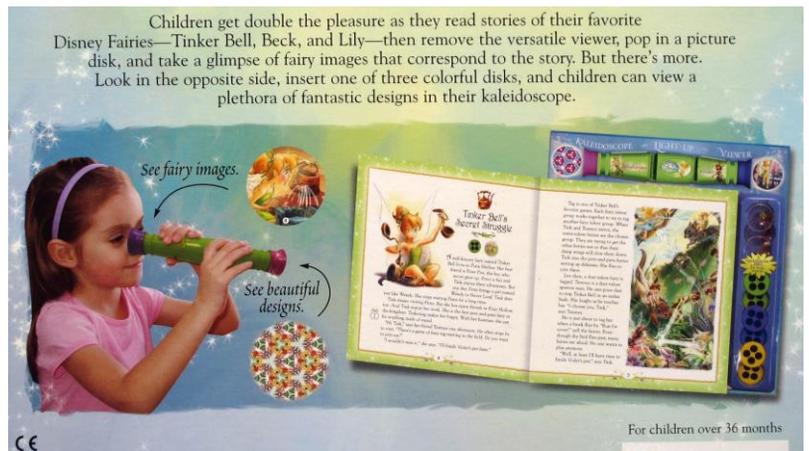


Fig. 3 ビューアと万華鏡の使い方(絵本の裏表紙)



Fig. 4 プロジェクターが組み込まれた絵本 “Barbie™ Movie Theater”の表紙



Fig. 5 プロジェクターの使い方(絵本の裏表紙)

口絵解説

「画像からくり」

第10回 光学機器付きの絵本

—カメラ, 万華鏡, プロジェクター

10. Picture Books with Optical Instruments
— a Camera, a Kaleidoscope, and a Projector

桑山哲郎

今回の「画像からくり」では、光学機器と一体になった絵本を3冊取り上げる。絵本がどのように光学機器と組み合わせられるのか、見当もつかない方がほとんどだろうから、絵本の外観写真を用いて、その楽しみ方を紹介する。

Fig. 1は、“Smile for Elmo”というタイトルの絵本の表紙である¹⁾。表紙の中央には、35 mmコンパクトカメラのおもちゃがはめ込まれている。このおもちゃは、絵本の最終ページに取り付けられていて、絵本のページをめくる間もずっと、向かって右のページの中央に見えている。表紙は、セサミストリートの人気キャラクターであるエルモ (Elmo) がカメラを構え、こちらを向いているが、ダミーの撮影レンズの中にもエルモの姿が描かれている。レンズの左上の“Click”と表示されているボタンを押すとシャッター音がして電球が光り、フラッシュ撮影をされている体験ができる。小さな子供にとっては、自分に向けシャッターが押される体験がカメラとの最初の出会いだろうから、この配置が自然なのだと思う。レンズの周囲には、キャラクターの顔を描いたボタンが配置されていて、ボタンを押すとそれぞれのキャラクターが呼びかけてくる。光と音で遊ぶ絵本である。

もっと小さなカメラの形のおもちゃが付いている絵本は、多数書店で見つけることができる。そのほとんどはビューアとして遊ぶカメラ形のおもちゃで、ファインダーを覗いてシャッターボタンを押すと、見える像が切り替わる。

なお、もっと複雑なビューアが付いている絵本もある。Fig. 2は、“Tinker Bell and Friends”というタイトルの絵本の表紙である²⁾。絵本はほぼ正方形で、最後のページは一回り大きな寸法になっている。その上の部分には、万華鏡とビューアが一体となった光学機器が取り付けられている。絵本の右側には、ビューアで観察するスライドと、万華鏡で用いる物体が透明ケースに収められている。

Fig. 3は、この絵本の裏表紙の一部を拡大した状態である。この種の「しかけ絵本」は、書店の店頭では透明なフィルムで厳重に梱包されて並んでいる。遊び方がよく分かる写真があると、絵本を手にし、買うべきかどうか悩んでいるお客に対して、その楽しみ方を案内することになり、効果的と思われる。なおこの万華鏡とビューアは、中央部に電池と電球が収められていてバックライト照明となる仕掛けになっている。ビューアに差し込む円板は、1枚の円板に4枚の図が配置されている。円板は全部で6枚なので、ビューアで楽しむ図は、合計24枚となる。

最後に、“BarbieTM Movie Theater”というタイトルの、プロジェクターが一体になっている絵本を紹介する³⁾ (Fig. 4)。この絵本でも、裏表紙には遊び方が表示されている (Fig. 5)。ちょうど直径24 mmの寸法の透明なフィルムに、8コマの画像が焼き込まれていて、プラスチックの円板にはめ込まれている。この絵本には全部で10枚の円板が付属しているので、80コマの像を楽しむことができる。Fig. 5に見えるように、円板をプロジェクターにセットして像を壁に映写する。絵本の各ページに書き込まれている番号と、映写される画像が対応している。絵本のページを読み進むのと同期し、円板を回転して映写する像を切り替えることで、スライドショーを楽しむことができる。この絵本に付属しているプロジェクターは、スイッチを切り替えると映写用の電球と読書用の電球両方を点灯することができる。なお、4つのお話は、バービー人形のキャラクターが演じるビデオ作品を元としている。DVDとして発売されたビデオソフトを、プロジェクターが付いている絵本に作り替えたのではないと思われる。

なお今回取り上げた3冊の絵本に共通していることは、すべて電池を内蔵していて光を発することである。古本として入手した本でも、電池の容量は十分で正常に作動する。電池で動くおもちゃと絵本の相性は、悪くはない様である。

引用文献

- 1) Illustrated by Tom Brannon, Written by Dana Richter, “Smile for Elmo”, Publication International, Ltd. 2002.
- 2) Adopted by Sarah Heller, from original stories by Kiki Thorpe, Laura Driscoll, and Kirsten Larsen, Illustrated by Judith Holmes Clarke, and the Disney Storybook Artists, “Disney Fairies, Tinker Bell and Friends, Storybook and Kaleidoscope Viewer”, Reader’s Digest Children’s Books 2007.
- 3) Adopted by Merry North, Based on the videos, “BarbieTM Movie Theater, Storybook & Movie Projector”, Reader’s Digest Children’s Books 2004.